

1 学校で求められる配慮・管理

1-1 各アレルギー疾患との関連が深い学校での活動

アレルギー疾患を有する児童生徒が、健康で安全に学校生活を過ごせるよう、アレルギー症状を誘発したり悪化させたりする要因がないか、校長が責任者となって検討し、全教職員で共通理解しなければなりません。

まず、学校の活動の中でアレルギー症状を引き起こしやすい原因となる活動を確認しておきましょう。

各アレルギー疾患と関連が深い学校での活動

学校での活動	食物アレルギー アナフィラキシー	気管支 ぜん息	アトピー性 皮膚炎	アレルギー性 結膜炎	アレルギー性 鼻炎
1 動物との接触を伴う活動		○	○	○	○
2 ダニ・ホコリの舞う環境での活動		○	○	○	○
3 花粉の舞う環境での活動		○	○	○	○
4 長時間の屋外活動		○	○	○	○
5 運動（体育・クラブ活動等）	△	○	○	△	△
6 プール	△	△	○	○	△
7 給食・昼食	○		△		
8 食物・食材を扱う授業・活動	○		△		
9 宿泊を伴う校外活動	○	○	○	○	○

○：注意を要する活動 △：時に注意を要する活動

（引用「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン《令和元年度改訂》」財）日本学校保健会）

特に、食物アレルギーに関しては、給食や昼食の時間だけではなく、食物や食材を扱う学校行事や学習活動等（家庭科・生活科・理科・特別活動・総合的な学習（探究）の時間、クラブ活動等）での対応について配慮した個別支援プランを作成する必要があります。

個別支援プランの作成については、「2-2 取組実践までのながれ」を確認したうえで、活用するようにしてください。